

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまぎり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果確定日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=4271401608-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成25年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーにし、地元で採れる旬の食材を自分達で収穫し料理方法を話したり美味しく頂く又天気の良い日には日光を沢山浴び体内時間を充実して頂き夜間熟睡出来る様にしています。緑茶を入浴剤として使用しリラックスした入浴を楽しまれています。また地域のイベント(お正月の初詣で、島原の初市、桜見学、芝桜見学、こんびら祭り、等)に出かけたりホーム内で誕生会、夕涼み会、敬老会をしています。島原半島認知症共同型生活介護事業所連絡協議会で開催されるふうせんバレー大会に参加し楽しいひと時を過ごされています。中学生の「福祉体験学習」を受け入れ会話やゲームを楽しめます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員の間には強い絆があり、一番短い職員でも3年勤務、長い職員が設立時からの10年勤務者があり離職率が低く継続したサービスを安定的に提供している。また、理念である「毎日が笑顔」を実現する為に毎月の行事だけではなく、利用者からの突然の要望などもすぐに行動しており利用者本位で活動し、ホーム内では職員と利用者の笑い声が絶えない所である。特に、食事に関しては産地からのお取り寄せや地産でとれた食材などを活用して料理を作り、利用者の苦手な食材も様々な工夫を行い、おいしく食べて頂けるように努力をしている。地域との交流も活発でイベントに積極的な参加したり中学生の福祉体験を受け入れるなど、地域に根付いた運営を行っており、今後益々の発展が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーとし全員で笑顔を多くみられるようにしている	職員全員が理念を把握しており、利用者がどのようにしたら笑顔になって頂けるかを職員みんなで行動し、利用者の要望を叶えるために考えて実践している。楽しく明るいホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、神輿来所・地域のイベント、スーパーへの買い物	玄関は施錠されておらず近隣の方も気軽に立ち寄れる環境作りを行っており、施設の行事の際には、近隣に声かけを行い参加を促している。また、地域のイベントは積極的に参加し交流を図っている。	近隣との交流があるので、地元自治会への加入を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	深江中学校の生徒様の「福祉体験学習」を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、お便りにて会議内容を家族へ報告した、入居者も会議に参加されている	管理者のみならず職員も参加し、利用者の現状の報告を行いながら外部参加者からの様々な意見を傾聴しサービスに取り込んでいる。また、外部参加者に認知症や介護調査等の説明を行い、運営推進会議の質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会に加入し、ホーム長会議、南ブロック役員等をしている	生活保護者の方がおり、市の生活福祉課とは常に連絡を取り合っている。また、市の職員が月に一回来所され利用者とは話をしたり職員との意見交換を行っている。入退所があるときは市に報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から身体拘束廃止の姿勢に努め拘束を必要としないサービスを心掛けている	ホーム内での拘束事例はひとつもなく職員も拘束をしないようにアイデアを出し合い拘束ゼロを目指している。またホーム内では玄関だけではなくすべての鍵を施錠せず、開かれたホームを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否があれば、ほかの職員と素早く交代している(職員のストレスを貯めない、精神状態を安定させる)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、入所予約時、入所時に説明し同意をして頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話によるコミュニケーション、毎月の「あまぎり」便り、個々の写真集を発行	利用者の家族は頻繁にホームに来所され、家族からの要望を聞き、そのつど対応している。また、管理者は利用者の状態の変化などある場合は電話で連絡し、その際も家族の意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時、毎日朝の申し送りなど職員の意見を聞く機会を設けている	毎日の申し送りだけではなく日々、管理者が職員からの相談を受け付け、管理者は相談しやすいように職員に声かけを行っている。また、業務外でも職員交流の場など積極的に開催し意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時、希望を聞き作成		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に出来るだけたくさん参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会で開催される研修会等に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の御要望を聞き希望に添えるコミュニケーションをとる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族の御要望を聞き希望に添えるコミュニケーションをとる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と連絡を密にとり、問題点御要望を聴く様努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族や病院からのサマリーを元にサービスを検討している(当面のサービス提供票作成)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご要望やご意見を聞いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いかなる時もご家族様の意向に沿えるよう連絡を密にしている	時には、利用者の暮らしていた家やスーパーなどに行き、近所の方との交流をしている。また、友人が来所した際は、一緒に食事を摂ってもらう等、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年賀状・暑中見舞い、行事案内や「あまざり」便りを子供・孫・親戚・兄弟・知人(家族から申し出がある方)に発送している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「あまぎり」の行事(夏祭り)のご案内・年賀状・暑中見舞い等の発送		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを会話の中から見つけ出し、笑顔で暮らせるようにしている	入居時のアセスメントにより、本人と家族の希望を聞き取り、介護計画に反映している。日頃の会話からも行きたい場所や、やりたい事などを聞き取るように心がけている。また、会話が困難な利用者には何度も耳を傾けたり、表情からも汲み取るよう努力している。徘徊がある場合にも、一緒に外に出て落ち着くまで見守るなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方も生活歴について把握できていない部分があり困難な時がある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックや表情や動き、しぐさから現状の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会議を開き意向や希望を聞き介護計画を作成している	一ヶ月に一度の職員会議で、それぞれの担当者が作成した介護計画を再度職員全体で話し合いをし、アイデアを出し合っている。特に体重管理には気を付け、食事面は全職員で注意しながら支援している。三ヶ月に一度の見直しを行い、入退院など変化があった場合にはその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・医療連携ノート・看護記録等があり共有しながら実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望がある時や特変事には素早く対応する。また、外泊希望時にご家族の送迎が困難時は職員が送迎している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑での野菜収穫に参加したり、施設の畑で野菜を栽培する。また、地域の祭りや催しに出かける		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に受診前後の報告をし、要望や希望を先生に伝える。 また、受診時ご家族に同行して頂くときもある	入居時、利用者と家族に、かかりつけ医と協力医のどちらに通院するかを選択してもらうようにしている。必要に応じて希望の病院への通院介助を行い、家族へ面会時や毎月の支払い時にその報告を行っている。特に変化があった場合にはその都度、電話連絡を行っている。また、利用者が入院した場合には、家族に同行し状況の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員のきずきを看護師に連絡する。 看護師は定期受診に同行し結果を職員に伝える(看護記録・医療連携ノートに記載する)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを作成し情報提供をしている。 また、入院中に様子を観に行き病院関係者との情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間連絡可能な看護師配置。 また、重度化・看取りの説明書、同意書を得ている。 医師にも協力して頂いています。(入院中死亡された時、ご家族の方が死後の処置を職員に依頼されたこともある)	入居時に看取りに関する指針説明を行い、看取り介護についての同意書に同意をもらっている。また、状況の変化により途中で再確認をし、再度同意をもらうようにしている。医師の協力のもと24時間体制で置の間で家族と共に皆で看取り、安心して最期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに従い行動する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しマニュアルの確認、近隣の方の協力を得られるようになっている	夜間を想定した避難訓練を消防署の協力を得て行っている。実際に近くでのボヤ騒ぎの際は無事外へ避難することができた。近所に消防団員の方がおり、非常時には協力してもらえるよう日頃から地域の方々へお願いをし協力体制ができている。また、近くに避難場所があり、日頃から散歩時に時間を計り確認をするなど、緊急時に備えている。	災害時の避難については訓練や地域との協力体制も確立しているが、いざという時の非常食などの備品が備えられていない。利用者の非常用食料や備品の準備が必要であると思われるので、検討を希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語使用を基本とし時にはその人が元気な時使用していた言葉(方言等)も使用する	利用者と職員が家族のような関係であり、方言を使って会話をしている。馴れ合いから聞きづらいような場合は職員間で注意するよう心がけている。利用者の個人情報の守秘義務において職員採用時に同意をもらい、徹底している。また、利用者の写真使用についても同意をもらい、取り扱いに注意し管理徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から思いや希望をくみとり確認することで自己決定に繋げている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様に合わせ暮らして頂く		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに応じている「洋服を買いたい」と希望があればお店に同行しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き提供している。 また、後片付けや、味付けの評価をして頂いている	食材は産地直送のものを取り寄せたり、地元の野菜を使うなど旬のものを使った献立になっている。入居時に嗜好調査を行い、また食事時の様子や体調に合わせて代替のものを用意する対応を行っている。アレルギー以外のものは、なるべく食べてもらえるよう工夫して調理を行い、職員と一緒に楽しんで食事ができるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1500ml/1日を目安とし、無理せず飲用して頂く。糖尿病の方は毎日血糖値をみながら食事量を調整している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き施行		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記入表(24時間シート)を使用し、日中はトイレ誘導をしている。また、トイレの訴えがある時は対応している	利用者全員の排泄リズムを記録し、職員全体で把握している。目安として二時間に一度、声かけを行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。他の人に気づかれないようにさりげなく誘い、失禁した羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ルイボスティーを飲用し野菜中心の食事を提供。 また、廊下歩行や施設周辺へ散歩に出かけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴(お茶風呂)、失禁時や入浴希望がある時は入浴している。 夏場はほぼ毎日シャワー浴をしている	一日おきの入浴ではあるが、本人が入りたい時間に入れるようにし、必要なときは、足浴やシャワー浴で対応している。血行や殺菌効果を期待できることからお茶風呂を行っている。また入りたい人同士、楽しんで入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い時は布団を天日干しをしたり、シーツを洗濯する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている薬の種類を把握し確薬する。個人記録に処方箋をファイルし必要時はすぐ見れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせ出来ることをして頂く。 (掃除・洗濯干し・洗濯ものをたたむ等)飲食店へ行き食べたい物を自分で注文して食べる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先に出たり、野外昼食会、畑の野菜を観に行ったり、ジャスコやパン屋さんへ行く等、希望があれば外出可能	天気の良い日には、お弁当を準備し全員でお花見にドライブをしたり、近くの畑に野菜の収穫に出かけたりしている。個人外出も利用者の馴染みのお店に衣類等を買に行き、帰りにお茶をしてくるなど、その日の希望に可能な限り沿えるよう、外へ出かける工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かり小遣い帳をつけている。買い物の際は自分で支払いをしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「あまざり」便りと一緒に、一人ひとりの様子を写真とコメントをいれ発送している。電話の取り次ぎもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に写真の掲示や季節の花を飾り、外の畑には季節の野菜を栽培している。	多目的に使える畳のスペースを設けてあり、いつでもくつろげるよう配慮されている。写真を掲示したり、観葉植物や季節の花などを飾ることで季節感も出している。臭いがこもらないように常に換気を行い、居心地よく過ごせる配慮されている。また、家族からの意見で玄関先の階段をなくし、出入りしやすいよう改善されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり、会話を楽しんだり、娛樂室で日向ぼっこをされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた寝具を使用したり、ラジオ・テレビ・タンスを使用している	ゆったりとした広い居室には、自宅と同じような雰囲気でも過ごせるよう、家族にまかせて自由に部屋作りを行っている。また、転倒や転落防止対策としてベッドではなく畳にするなどの対応も行っている。位牌の持ち込みにも対応し、本人が居心地よい居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3部屋にトイレを設置、1部屋に自宅で使用されていたテレビやタンスを使用されています		